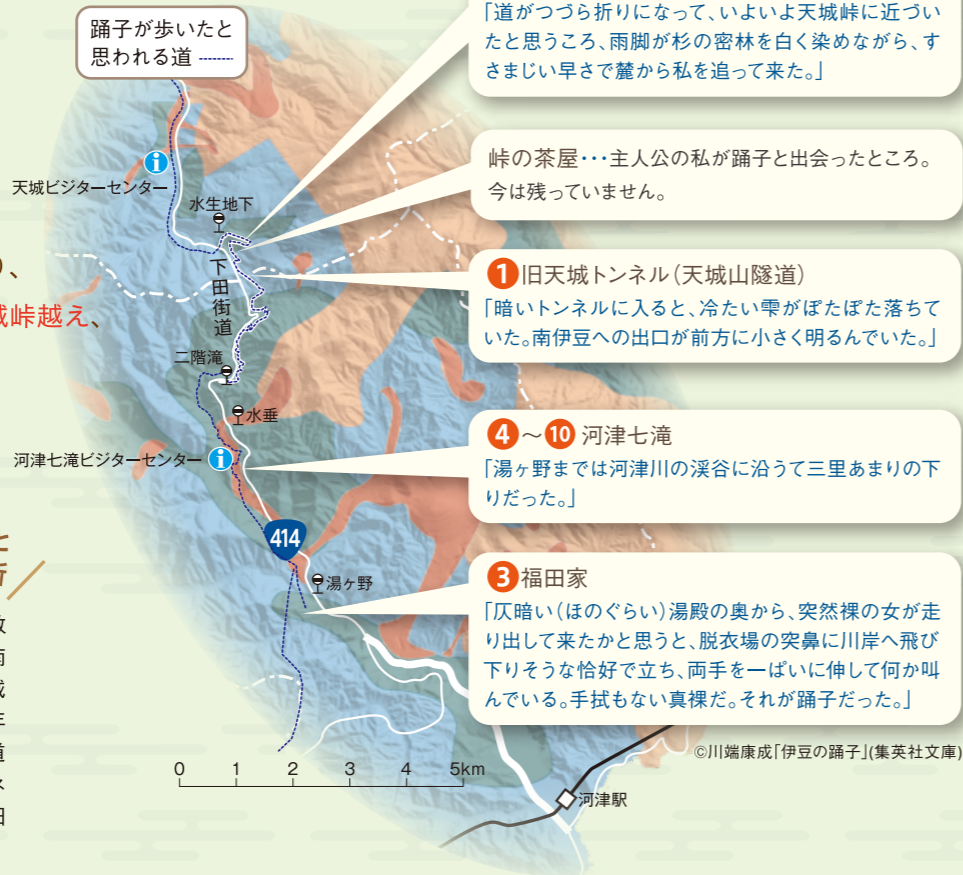


# 「伊豆の踊子」の世界へ

～百年前の旅情に身をゆだねて～

川端康成の不朽の名作「伊豆の踊子」の舞台となった旧下田街道沿いには、天城山隧道(旧天城トンネル)、湯ヶ野温泉の宿「福田家」などが百年前の姿のまま残っています。小説の舞台は踊子歩道として整備されており、ケヤキやカエデ類などの緑が目にしみる天城峠越え、涼味満点の河津七滝と、いずれも心洗われるハイキングコースです。



## ① 旧天城トンネル (天城山隧道)

「伊豆の踊子」で、旧制一高生の主人公「私」が14歳(数え年)の踊子と出会った場所。伊豆半島の気候風土を南北に分ける標高711mの天城峠にあり、伊豆市(旧天城湯ヶ島町)と河津町とをつなぐトンネルとして、明治38年(1905年)に開通しました。国内で最長・最古の石造道路隧道として、国の重要文化財に指定されました。トンネルは、「切り石巻工法」という手法で造られており、石は旧大仁町(現伊豆の国市)の吉田石が使用されています。

踊子が「私」と出会った場所

## ② 伊豆の踊子の文学碑

「道がつづら折りになって、いよいよ天城峠に近づいたと思うころ、雨脚が杉の密林を白く染めながら、すさまじい早さで麓から私を追って来た。」

峠の茶屋…主人公の私が踊子と出会ったところ。今は残っていません。

## ③ 旧天城トンネル(天城山隧道)

「暗いトンネルに入ると、冷たい雫がぼたぼた落ちていた。南伊豆への出口が前方に小さく明んでいた。」

## ④～⑩ 河津七滝

「湯ヶ野までは河津川の渓谷に沿って三里あまりの下りだった。」

## ③ 福田家

「仄暗い(ほのぐらい)湯殿の奥から、突然裸の女が走り出して来たかと思うと、脱衣場の突鼻に川岸へ飛び下りそうな恰好で立ち、両手を一ぱいに伸して何か叫んでいる。手拭もない真裸だ。それが踊子だった。」

## 川端康成の常宿

### ③ 湯ヶ野の宿「福田家」

川端康成が19歳の時に訪れ、当館を舞台に「伊豆の踊子」を執筆しました。館内には川端直筆の原稿、数々の筆や写真があります。この宿で「伊豆の踊子」の映画も撮影されました。踊子が裸で飛び出してきた共同湯は福田家の対岸にあります。



## ② 伊豆の踊子文学碑

川端康成のレリーフと「伊豆の踊子」の冒頭の一文が刻まれています。天城山は年間3000mmを超える日本有数の多雨地域です。



## なだる 河津七滝

河津川の魅力は至るところで見られる大小さまざまな滝です。黒っぽい玄武岩の柱状節理が美しい滝、岩肌を滑るように流れ落ちる滝など変化に富んでいることも魅力を引き立てています。ここでは滝は「たる」と読みます。



## ④ かまだる 釜滝

覆いかぶさるような柱状節理が見事です。



## ⑤ だる エビ滝



## ⑧ しょけいだる 初景滝

「伊豆の踊子と私」の像があり、撮影スポットとなっています。



## ⑥ へびだる 蛇滝



## ⑨ であいだる 出合滝

柱状節理を浸食してできた滝であることがよく分かります。



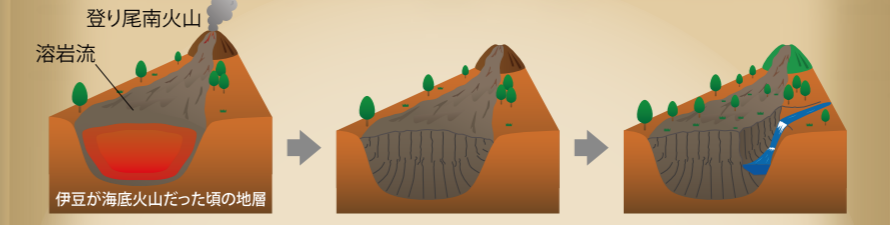
## ⑦ だる カニ滝



## ⑩ おおだる 大滝

高さ30m。河津七滝の中で最大の滝です。

## 河津七滝のでき方



およそ2万5000年前、登り尾南火山から流れだした溶岩が、谷の中に流れ込みました。溶岩は冷え固まって、複雑な亀裂を含む巨大な岩のかたまりになりました。川の流れる長い時間をかけてかたい溶岩を削り取り、いくつもの滝をつくりました。



## モデルコース

### 伊豆の踊子の道をたどる

4.4km/徒歩で100分

すいしょうちた 水生地下

→徒歩50分 ①旧天城トンネル  
→徒歩50分 ②二階滝園地

河津駅からバス45分、水生地下 下車。  
二階滝からバス40分で河津駅。

### 滝めぐり

6.4km/徒歩で2時間

みずだれ 水垂から徒歩10分

→④⑤⑥⑦⑧⑨⑩河津七滝  
→③福田家→湯ヶ野

河津駅からバス35分、水垂下車。  
湯ヶ野からバスで15分で河津駅。

↑上記2コースを通しで歩くと  
14.5km/徒歩で4時間半

## ガイドのオススメ



わさび井  
ご飯の上にカツオ節を載せ、そこに生わさびをおろして醤油をかけるだけというシンプルさが売り。河津七滝地区の飲食店では、このほかアンパンにわさびを入れたあんバターわさこ、泣きそばなどのわさびグルメを堪能できます。

河津川沿いには数カ所の無料の足湯があります。早春には河津桜を眺めながら、あるいは河津川のせせらぎを聞きながらゆったりした気分。



## 注意事項

●歩きやすい服装、靴でご参加ください。